

『子どもの 笑顔で結ぶ 保護者との連携』



沼澤 清一

一年生一学期 家庭とのつながりを生むために

座席表

八 子どもの動きの記録

四月から、子ども達の良い行動を見つけ、具体的に学級通信に書いてきた。好評であった！

ところで、私は、子ども達の名前を覚えるのに時間がかかる。記憶力も人並み以下である。

どうやって記録したか……

座席表が良かった。

名前を覚える前でも机の位置を頼りになぐり書きができた。

何しろ四十名が教室内を動き回る。ネームなど見ている暇はない。

紙に座席表を印刷し、毎日子ども達の様子を見ては一日一枚は書き続けて行つた。

[illegible]

勿論、一時間の授業で一枚と、授業記録でも活用した。
毎日、最低一枚は記入した。

それをもとに、夜、一日の学級での出来事を思い出しながらパソコンに向かった。

学級通信には、毎日の授業での様子も書いた。五月中旬まで各時間したことを箇条書きにして書いた。
その後は、その日の目立った様子を書き続けていった。

保護者の方は、学校での様子を知ることができて安心されたようだ。家庭からの連絡帳に書かれる内容に、それが表れるようになってきた。

一 子どもの姿を写真で伝える

今であればデジカメで容易に行えることであろう。ビデオも簡単に撮れるであろう。

当時は、普通のカメラによる撮影であったが、一年生を担当した一年間、たくさんの写真を撮って家庭に渡した。

工作で作品を作れば手に持って「はいポーズ!」、アサガオの生長段階で「はいポーズ」

一人一人の写真の現像が終わり、それぞれの子に渡す前に、することがある。

効果的な教室掲示のためにも……………

教室掲示用に写真をカラーで拡大コピーをする。



カエルくと遊ぼう（左手親指の上に
乗せています）

写真E版八枚を並べてA3版にカラーで拡大コピーをする。

プリンターによるインクジェット印刷よりも、早く、安く、きれいだである。何よりカラーコピーは教室に掲示していても色落ちしない。持ち上がりの場合でも、一年前のものでも色落ちせずに保管可能である。

学級にまとまりが出てくるにしたがって、子ども達の表情は穏やかになり、柔らかな笑顔が生まれる。教室に貼られたたくさんの友達の写真を見て、また、笑顔が生まれる。

授業参観の始まる前など、保護者が立ち止まり見るのは、廊下や教室内に貼られた子ども達の笑顔の写真のコピーの前である。

子ども達に安心した笑顔を導くまでには多くの時間を要する。

しかし、そこで生まれた一枚の写真は、保護者に多くの安心・喜びを与え続けることになる。





貴重な宝物である。

写真を渡した後に、保護者の方からお礼の言葉を頂く。

「家では見たことのない娘の笑顔。ありがとうございます。」

そこからまた新しいつながりが生まれる。

どんなに学級通信で子ども達の様子を伝えても、事実を提示しても、クラスの伸びを伝えても、

親にとって、一枚の我が子の笑顔の写真に勝るものはない。

一四 連絡帳の活用① 「家庭から学校へ」

家庭と学校をつなぐ「連絡帳」というA5版のノートを入学当初に全保護者に配った。

子どもは、お家の方から連絡を書いてもらって持ってくる。四十冊を見るのは時間がかかるが、子どもの体調や早退について書いてあるので、できるだけ朝のうちに見ることにしていた。

「今日、雑巾を持たせました。」

「風邪気味ですので、体育は見学させて下さい。」

「病院に連れていきますので、十一時に校門前に迎えに行きます。宜しくお願い致します。」

四月は、ほとんど数行の連絡であった。

私が学級通信で子ども達の様子を伝えてから一ヶ月もすると、連絡帳に書かれてくる内容に変化が表れてきた。

昨日は（帰宅が）八時だったのですが、もう疲れて疲れて、玄関を開けても「ただ今」の声も大きく出せませんでした。そこにAが出迎えてくれて、「お母ちゃん、お帰り！疲れたでしょう。」と言って肩をもんでくれました。とてもうれしかった。本当ならば、

「どうして、お母さん、いつも遅く帰ってくるの？たまには早く帰ってきて、私と遊んでよ。」

と言うのでしょうか……。学校に入ったとたん、だいぶ大人になったような気がします。その成長ぶりに涙が出そうでした。その他に、「お母ちゃん、お仕事がんばってね！」と言ってくれたので、今日の疲れが一気にふつとんで、明日からもがんばろう、という気力につながりました。私の仕事は、家をあげることが多くAのような小さい子にしてみればなかなか理解できないと思います。よく

「どうして、お母ちゃんはずっと家にいないの？」

と質問されたものでした。淋しい思いをさせているなあとつくづく思われましたが、少しずつわかってきたんでしょうね。家でも職場でも精一杯がんばっているように思いました。

子どもには「いっしょうけんめいさ」を見せられるよう努力したいと思います。

五月十四日

単なる連絡事項でない子どもの成長を喜ぶ親の言葉が寄せられるようになってきた。

五月中旬からは、家庭からの連絡帳に書かれた文を、学級通信に載せることにした。

学級通信に載せてクラスの保護者全体に広めるためであるが、その日のうちに返さなければならぬ連絡帳に、じっくりと返事を書く時間がないこともその理由の一つである。学級通信に載せることによって、返事をより詳しく書くことができるのである。

すると、保護者の方から、勉強になることがどんどん書かれてくるようになってきた。

保護者の理解を得られると、子ども達はどうどん前向きに伸びるということも分かった。

一緒に子どもを育てるところから始めると、教師と保護者の関係はこんなにうまくいくものかと教えられた。

最終号の学級通信までに年間で四百四十六のお家の方からの連絡帳の文を載せることとなった。

連絡帳より

学級通信ポンポコポン No.15 六月七日（土）裏面全面

まる一週間登校するのは、とっても大変ですね。きのうの朝の朝の大雨と雷にも弱音をはかずに歩いて行くうしろ姿をみて、一年生になって、まだ四十日なのに、随分成長したなあと思いました。えんぴつの持ち方もきちんと持てるようになり、ほめたところ「ニコッ」と笑顔を見せました。ここ一週間、何かとイラ

イラばかりして怒りんぼ顔ばかりしていたので、

「上手にできたことは、笑顔でほめる。」

ことを忘れていました。母親の顔色や態度が子どもの心に敏感に反応してしまうのですね。

五月十八日

「上手にできたことは、笑顔でほめる。」

親としてだけでなく、教師には特にこれが必要だと感じました。ありがとうございます。ジーンとききました。

日曜日に自転車乗りの練習をしました。先週はどうにもこうにも乗れず涙したBでしたが、やっとやつと補助なしで乗れるようになりました。何回も何回も転んで、今までなら転ぶ度泣いていたBが、この日は全然涙を見せませんでした。

「もうやめようかあ？」と私が言ったら、

「もう少しがんばる！」とB。

私も主人も「おお、がんばれ！」と自転車をおしてあげました。そして、

「やったあー。」

公園のすべり台に激突してしまったけど、

「そのキズは、初めて自転車に乗れたら誰でももらう勲章なのよ。」

とBに教えてあげました。Bもうれしそうでした。

先週とは全く違うBを見て、一日一日すごい勢いで成長していることに気がついた父と母でした。

五月二十日

この感動、すてきですねえ。こうやって大きくなっていけるのつていいですね。見守ってもらっていること

が意識できる時には、特にがんばれるものですねえ。

風呂場でハンカチを広げて、何をやっているかと思ったら、ハンカチを洗っていました。

「先生が、たまに自分で洗えって言ったんだ。」

と言いながら、ちゃんと干すまで自分でできました。自分でやる気をもっているときは、じっと見守ることにします。せっかくのやる気をつみとらないように。

本読みの宿題やっていました。前よりも、ずーっと上手になっていました。

五月二十日

いいことですね。経験が大切ですね。

結果として、お家の方の手間をかけることになっても、自分でさせることが大きな成長につながるようです。

いつもお世話さまです。ゆうべ熱が出ましたが、今朝は6度8分で元気も出てきました。少し食欲がないようですが、行きたいと言うので登校させました。今日は遠足の続きとかで、外で昼食を食べると聞いて、ご迷惑をかけてはと思いました。どうぞ宜しくお願い致します。

きょうは、元気で帰ってきて安心しました。

ところで、お弁当のおかずを全部落としてしまい、一緒に食べていたOちゃんとFちゃんに分けてもらったそうです。親切にしてもらい、とても嬉しく思いました。

五月十八日

優しいお友達をもっているということは、逆に、娘さんがいつもお友達に優しくしている証拠です。お弁当のおかずを落としてしまったのはとても残念なことでしたが、娘さんの友達とのすばらしい関係を知ることが

できましたね。

この日、私は、八幡神社の石段のてっぺんで食べていました。学年の子がバラバラになって食べていましたので、二組の子ども達全員に目がいきませんでした。教えて頂けてありがとうございます。娘さんとOさん、Fさんのすばらしい友達関係を知ることができました。

連絡帳より

学級通信ポンポポン No.16 六月七日(土)

きのうの家庭訪問ご苦勞様でした。もつといろんな話を伺いたかったのですが、限られた時間内でのことなので、とても残念です。Bも、

「先生、まだかな？」

「先生にコーヒーだしてね。」

などと首を長くしてまっています。先生が行ってしまうと、

「ああ、先生行っちゃった……。」

とさびしそうでした。私としてはドキドキの家庭訪問でしたが、Bにとってはワクワクの家庭訪問の様でした。家庭訪問というと、

「学校では○○なので、家庭でも注意して下さい。」

など言われるのかなと思っていましたが、まったく世間話から始まり、弟の事など、とても楽しい家庭訪問でした。

またいらして下さい。なんちゃって……。

五月三十日

家庭訪問、ありがとうございます。いろいろ楽しくお話をさせていただきました。

家庭訪問当日、その日の最初から五番目までの子を車に乗せて、五番目から逆に降ろしていきました。道を教えてもらいながら、お話をしながら、なかなか楽しかったです。

「この道ねえ、車が多いの。」

「ここでよく遊ぶんだよ。」

五番目までは迷わずにすみましたが、六番目からは地図がたよりで、不安でした。何しろ方向音痴ですので。

先生の車に乗って帰るということが、よほどうれしく、家庭訪問が始まった日から、指折り数えて待っていたCです。

「あさがおの種を植えて」のみんなの『なんでだろう』をおもしろく拝見しました。私達が知識・常識として頭の中に入っている事が、子どもにとっては不思議のなんですね。考えてみればあたりまえの事です、私達も学習することによって、それが知識として今、頭の中に入っているのであって、やっと学習を始めたばかりの我が子が疑問に思うのは当然かな。

「なんでこやしは、はじっこに置くのか教えてあげようか。」

「ウン！」

「Cは食べ過ぎるとどうなる？」

「おなかこわす。」

「あさがおも一度にこやしを食べ過ぎると死んじゃうんだよ。だから少しずつこやしが食べられるよう遠くに置くの。」

「ふうーん。」

この説明が果たしてCの知識となるかは疑問ですが、これから先もいろんな出会い、いろんな体験をし、
たくさんの不思議を学んでほしいです。

先生のめがでる！は良かったです。座布団二枚！

五月三十日

不思議を持つことは大切なことです。考えてから身につけたことは知識となつて残ります。それは、使える知識となります。

考えずに覚えただけの知識は、あまり使いようがありません。いくら覚えても、やがて忘れていくだけです。使える知識でなければ、と思います。

一年生の今の『なんでだろう？』はおもしろいです。大人の頭からは出てこないような楽しいものがたくさんあります。頭が柔らかいからなのでしょうね。

夜仕事の学級通信作りも、左のようなものを読むと、一人で大声で笑ってしまい、妻から叱られる。

土曜日から、家族三人で『しこ名』を考えるのにいっしょうけんめいです。私と主人は、どうせなら誰もつけないようなユニークなものがいいと【はっかけ山】とか【でつばら錦】とかにしようと言うのですが、Cは、「呼ばれるのは僕なんだよ！人事だと思って、ふざけないでよ。」

と気に入らない様子です。そうかなあ？いいと思うんだけど……。

今日帰つて来た息子は、【コナン山】とか【ピカチュー山】なんていうのがあつたよと言っておりました。アニメの主人公がしこ名になるなんて時代を反映していますね。

六月十日

子どもの姿と、保護者の方のユニークさ、その中にある互いに一生懸命な姿にお腹を押さえるだけしかない。夜仕事となる学級通信作成は、決して楽なものではないが、こうした温かい話に癒やされ、活力を得る源になっていたのだと感じる。学級通信を読む保護者の方々にとって、学級通信がそういう存在に成り得ていたか。……どうであつたろうか。

一五 祖父母参観を経て

祖父母参観の後、次のような感想を頂いた。

祖父母参観に出席したおばあちゃんの感想は、今の子どもはなんとハキハキものを言うんだろう。ものおじする子どもなんて一人もいないし、ずいぶんとしつかりしているとびっくりする事ばかりだったようです。確かに我々が子どもの時とは、ずい分ちがつているでしょうからギャップは激しいはずです。授業だけでなく学校の中の絵、おたまじやくし等、いろいろなものを見て、とても楽しかったようです。

六月三日

また、次のような感想も頂いた。

きのうの祖父母学級に参加したおばあちゃんの話聞いて、

「Bは、たぶんわかつているのに、なんで手をあげないんだろうなあ。」

「はずかしいのかなあ。」

と少し残念そうでした。夜私と一緒にお風呂に入ったので、

「どうして手をあげないの？」と聞いてみました。すると、「もしまちがったらいやだし、はずかしいもん！」ということ。

「まちがったら、その後どうすればいいかわからないもん。」

と続きました。私は、「えーっ」と思っしまいました、すぐこう答えてみました。

「まちがったっていいんだよ。まちがったら、まちがった分だけよく覚えらるんだから！」

「それにBは頭がいいんだから、めったにまちがわないよ。堂々と思いきって手をあげてごらん。うでを耳の所にしっかりとつけるようにしてね。でも、もしももしもまちがっちゃったら、『あちゃーまちがっちゃったあ』と笑ってごまかしてしまえ！」「お母さんもそうだったんだから、勇気だしてがんばればがんばれ。」

Bは、「んんん手あげてみるかな……。」と、まだまだ消極的……先生、私の言っていることにまちがいはありませんでしょうか？

これからのBを見ていて下さい。

P.S. なかなか楽しくてわかりやすい授業だとお婆あちゃんは言っていましたよ。

六月三日

【学級通信でのコメント】お母さんの言われる通りです。まさしく、その通りだと思います。Bさんのような気持ちの子は、たくさんいます。それが、最初のあたり前の子ども達の姿だと思います。でも、お母さんのようにかみ砕いて説明してくださる方は、そうそういません。とても勉強になりました。

(そこで表のお話を考えてみました。どうでしょうか?)

間違いが大きく成長させる

六月四日(水)

学級通信ポコポンNo.20

六月四日(水) 手をあげて発表することについて、みんなにお話しました。

黒板に

バナナ

みかん

メロン

もも

赤ねこ

の五人の顔をはりました。

問題が出ました。バナナ、みかん、メロン、ももの四人が手を上げました。バナナが答えました。はずれでした。

その時、赤ねこちゃんは、

『あく言わなくて良かった。私は間違っていた。』

みかんが答えました。はずれでした。

その時、赤ねこちゃんは、

『あく言わなくて良かった。それも違った。私は間違っていた。』

メロンが答えました。あたりました。

その時、赤ねこちゃんは、

『なぐんだ、そうなの。』

その脇で、バナナは考えています。『どうして間違ったのだろうか？』

その脇で、みかんは考えています。『あくぼくの人生は終わった……』

『あつそうか！』バナナは言いました。どうして間違ったのか分かったのです。『あく言わなくてよかった。よかった。間違わなくて良かった。』赤ねこちゃんは、まだ思っています。

別の問題が出ました。バナナ、みかん、メロン、ももの四人が手を上げました。

ももが答えます。あたりました。

もも『何だかよくわからなかったけど言ってみたらあたった。うれしい』

赤ねこ『なくんだ、私のでよかったんじゃない。』

バナナ『うん、さっきのようになるといいんだ。やっぱり！』

みかん『ぼ、ぼくはいいんだ。どうせ、もうだめだ。』

お勉強の時間が終わりました。

もも『あたってうれしかった。』

赤ねこ『あくまがわなくてよかった。』

みかん『ぼくは、もうだめだ。勉強やめた。』

バナナ『うん、どうすればいいか分かったぞ。』

どう思いますか？ 本当に勉強しているのは、だれだと思いますか？

教室中から、『バナナ』という声が聞こえてきました。

『赤ねこちゃんのは、勉強じゃないよ。』

『間違うことばかり考えていたら、だめなんだよ。』

『失敗は、成功のもとなんだよ。』

それぞれ、分かっているようです。

この後、二股ソケット発明のお話

コロンプスのたまごのお話

をしました。

失敗や間違うことをおそれて、何もしないで『あく間違わなくてよかった。』じゃなくて、

間違ったら『どうしてなんだろう?』と考えること、そっちの方が大切

保護者の意を得て子ども達全体に指導をした。

Bさんだけでなく、みんな内心そう思っていたのである。

私の下手な絵を見ながら、子ども達は、笑顔で私の話を聞いていた。

「まちがってもいいんだよ」という言葉が子ども達から自然に聞こえてくるようになるのに、そう多くの日数はいらなかった。

一六 連絡帳の活用② 「学校から家庭へ」

学校からの連絡を、子ども達は終わりの会に連絡帳に書いていく。

私が黒板に書いた連絡を、子ども達が自分の字で連絡帳に書き写すのである。

有田和正先生のおたよりノートの追試である。

学級通信では間に合わない急な連絡に便利である。しかし、それ以上に、子ども達の字の練習、文章力向上、視写力向上に大きな成果が表れることになる。

最初は五月十二日の「あしたは、おべんとうよろしくね。」の十四文字であった。

これでも一年生にとっては、緊張感一杯であった。書き終わった子からノートを持ってこさせ、確認した後、シールを貼ってあげた。

最初は、ひらがなも完全に学習していないのに大丈夫だろうかと心配したが、子ども達が楽しそうに集中して書

く様子を見て、六月後半からはほとんど毎日書いていった。

4月 遅れて申し訳ありませんでした。飲送迎会に出席する事になりましたので、よろしくお願ひ致します。

5月 12日 月 あしたはおべんとう。よろしくね。

5月 14日 水 家庭訪問ですが、水曜日は音楽教室が四時からありますので、変更できましたら、四時前にお願ひしたのですか。

31日の2:20まではいかかでしょうか？

5月 16日 金 31日で結構です。お手数をかけて申し訳ありません。よろしくお願ひ致します。



■おたよりノート「教師と子どもの動き」

- ① 教師が、連絡を板書する。
- ② 子どもたちは、自分の連絡帳に書き写す。
- ③ 書き終わった子は、連絡帳を持って廊下に並ぶ。
- ④ 教師が、シール（またはハンコ）と机（ハンコを押すときに使う）を一つ持って廊下に行く。

⑤ 一人一人の連絡帳を確認して、シールを貼ったりハンコを押したりする。

書き忘れなどがある子は、席に戻って書き直して、また並ぶ。

⑥ ⑤の時に一人一人に声をかける。(一日一回必ず個別に声をかけることができる。)

⑦ ノートや日記帳を渡すときは、早めに書き終わった子から数冊ずつ渡してもらう。

⑧ 終わった子から帰りの準備を始める。

書き終わった子を教卓前に並ばせると黒板が見えなくなるために廊下に並ばせた。これは、子ども達に動きを与え、多少の競争心をあおり、効果的であった。

確認のシールは、人数分用意し、絶えず書き終わっていない子の人数を確認する。

そうすることによって、書いたけど見せるのを忘れたり、間違いを指摘された後の訂正を忘れたりする子をなくす。何しろ四十名の一年生である。

二学期も後半になると、私の板書が終わると同時にノートを持つてくる子が五名出てきた。

百三十字ほどであれば、十分あれば四十名全員が書き終わるようになった。(板書時間四分を含む)

一年生は、目に見えて成長を感じとることができる学年である。

こうした子どもの一つ一つの成長をもとに、保護者の方々の安心感は築かれていく。

一七 子どもを見取る

私は、「子どもを見取る力」が足りない。だから、誰よりも子どもの姿を見守ろうと努力している。すると、子どもの生むドラマは、いろんなところに隠れていることが分かってきた。

学校での子ども達は、授業を中心に生活しているが、ドラマは授業の他にもいろんなところに隠れている。その瞬間を見取り、その子を認め、その行動を価値付け、まわりに広めていく。

教師が教えたいこと、特に善悪の判断は、子ども達が何気なく行っている行動の中にあることに気づかされた。

.....その瞬間をとらえる.....

.....五月三十日（金）学級通信ポンプコポン No. 16.....

中間休みに中庭で長縄跳びをしている子がいました。すると.....元氣にとんでいると、ちよつと転んで手をついて、それが三組の子のあさがおの鉢に当たって、鉢が倒れてしまいました。

悪気があつてのことではないので、仕方ありません。こういうことは、よくあります。

私は教えられてその場に行ってみました。鉢が倒れて、土がこぼれています。やつと出たばかりの芽もおれていました。

『教室に残った種があつたから、それでがまんしてもらおう！』

しょんぼりした顔が元氣になってきました。

しかし、倒れた鉢はそのままです。

私が手で土を入れようとすると、その前にしている子がいました。

「手は、汚れたって、洗えばいいんだから。入れよう。」

お友達に呼びかけているのです。言われた友達は、一緒になって手で入れていました。

いい場面です。すごいなあと思いました。

お友達を誘って、みんなでいいことができて、みんなにすばらしいことを教えてあげて！

深瀬 舞さん、ありがとうね！

滝田省吾くんがお休みでした。さよならした後に机を後ろに運ばなければいけません。省吾くんの机はだれが運んでくれるのかなあ？と思ってみていたら、奥山千絵さんと小幡紀子さんと細矢恵理奈さんが運んでくれました。えらいなあ。

ドラマは、いろんなところで生まれる。時には、教師が「待つ」中で生まれるものもある。その一瞬を感じ、じっと見取る余裕が教師の中にあるか、である。

一八 連絡帳の活用③ 「親と教師のキャッチボール」

家庭からの連絡帳に、私の連絡（板書したものを子ども達が連絡帳に写していったもの）に対する楽しいメッセージを頂けるようになった。

六月二十三日の連絡帳に

七月七日（月） 学級通信ポコポコ No. 24

あしたはすいえいをします。あらつてもつてきましょう。
りっぱなかつぱになるぞ！

と書いてもらいました。連絡帳に書く内容もちろん大切なのですが、書きながら次のことを目標にしています。

① 黒板に書かれた字をしつかりうつす力（視写）を育てる。

② 国語の勉強の復習（この日は「つ」の使い方）

段々に（三学期頃かな）聞いたことを書く（聴写）ようにさせていきたいと考えています。

ちよつと不謹慎な言葉もみられるかもしれませんが、とりあえず「書くことが楽しく」なるために工夫しているとご理解頂けると幸いです。

はい、わかりました。りっぱなかつぱになるぞうというところを読んで、Dと一緒に笑いました。「えっ、Dが思ったの？」と聞くと、「先生だよ。」「先生っておもしろいね。」「うん。」また二人で笑いました。なるぞうとのぼすところ、まいったな。これも先生がおしえてくれたんですか？ 力の入ったかつぱになりそうですね。

今、隣でDは「りっぱなかつぱになります。」と言っています。

六月十六日

楽しいですね。こういう温かい会話ができるのは、温かい家庭だからですね。

かっぱになって、頭がはげたらどうしよう……

今日は、持つものも少ないので、やっとかたつむり持たせました。

消しゴムをおかりしたそうでありがとうございました。先生に返すように言いましたので、よろしくお

願います。消しゴムのにおいをかいで、先生のにおいがすると行って喜んでおりました。

六月二十三日

かっぱになったら、はげることがあっても、さらわれることのないようにだけご注意下さい。（これ、なかなかだと自分でも思います！）

かたつむりありがとうございました。元気に育てます！

（うう、今度は新品のお貸ししますネ！）

子どもの手書きの連絡帳を読むのが楽しみです。子ども達は先生のコメントを一字一字一生懸命書いている姿とコメントの内容が毎回楽しいので、そのギャップがおもしろいです。

六月三十日

毎日、子どもが何かを連絡帳に書いて持ってくる。それを見るのが、すごく楽しみです。慣れない字で、内容もおもしろかったり、かわいかったりして、「ちよつとおもしろくて、いい先生だねー。」

と笑いながら何度も読ませていただきました。後でわかりましたが、小さい「つ」とか「ぶ」とかの勉強だったんですね。よくわかりました。

七月七日

私の目指すところを受けとめ、こういう言葉を頂ける一冊の連絡帳がものすごく大きなものに見えてきた。

一九 自習の時間

課題をおいての出張Ⅱ自習の時間がやってきた。

……初めての自習の時間

……六月二十七日（金）学級通信ポンプコポン No. 25

八時十五分に学校を出て、村山市立富並小学校に授業を見に行ってきました。

一時間目と二時間目が自習になりました。

（初めての自習。どうなるかな？）と楽しみに出かけました。

二時間目の終わり頃に学校に戻りました。みんな静かに勉強していました。（なかなかやるなあ！）うれしくなりました。

「すごく立派だよって言われたよ。」

「がんばったよ。」

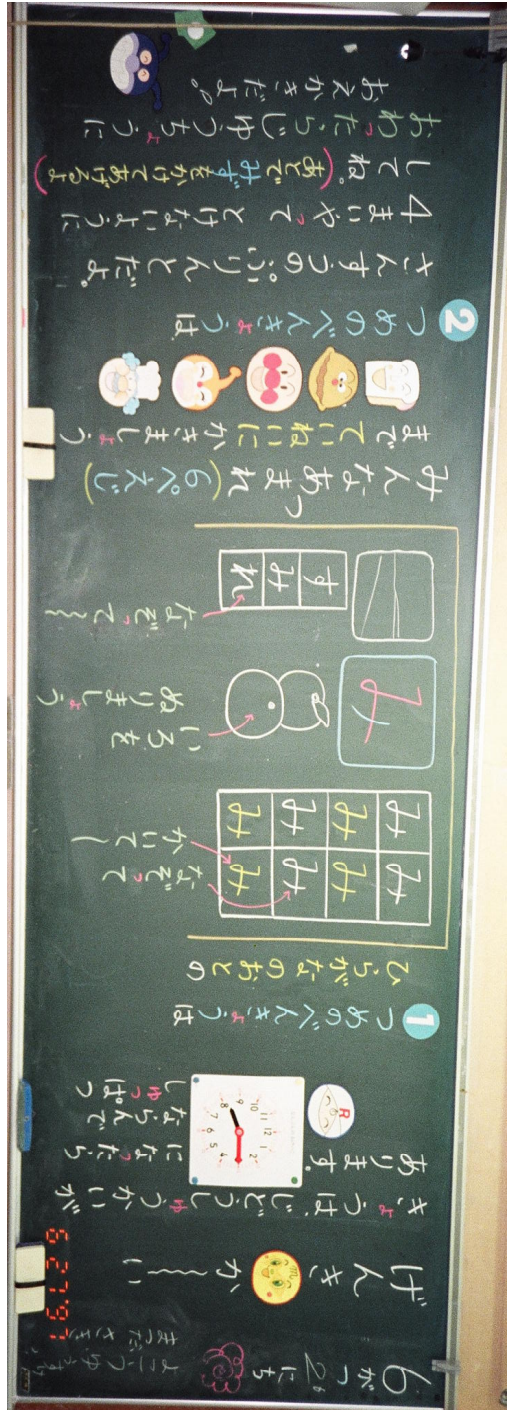
職員室に戻ると自習に出て頂いた先生から、「立派すぎる。」とほめて頂きました。（まあねえ！）

「朝の会もしていたよ。歌も歌っていたみたいだし……。」

そこまでしているとは思いませんでした。すごいなあ！

前日から自習課題を板書し、だれが何をするかを明確にしておいた。

自習の時間は、先生がいないのにがんばれた自分たちを自覚する「認められる」「ほめられる」時間にしなければならぬ。



変化への対応

七月二日(水) 学級通信ポンポコポン No.25

二時間目の授業が終わって、みんなが遊びに行った後、連絡帳に書くことを板書して、
【きょうしつにかえってきたら、れんらくちょうにかきましょう。】

と書いておきました。

中間休み後半に避難訓練がありました。休み時間の避難の仕方を勉強しました。

三時間目と四時間目に自習をしてもらうことになっていました。何をするかは二時間目に黒板に書いてみんなに説明しておきました。……だけど黒板には中間休みに急に書かれた板書があります。さあ、どうなるでしょう？

給食準備が始まる頃、戻ってきました。元気に準備をしていました。

「ちゃんとがんばったよ！」

明るい声が返ってきました。

自習に出てくれた先生との職員室での会話。

『連絡帳に連絡を書いていたか？急に黒板に書いて行ったら……。』

「先生は、いすを持って廊下に行くんだよって言われましたよ。見たらシールを貼るんだよって。黒板が見えるように廊下に机を持って行って、そこでシールを貼るんだよって。しっかりしてますねえ。プリントを渡そうとしたら、それは私たちが渡すんだよって、自分たちでしていました。」

『プリントを渡す子は二時間目に決めておいたんだけど、えらいなあ。ちゃんと廊下でって……。』

「あつ、シールを貼る時に、ありがとうって言ってたよ。気持ちよかったよ。」

『そうですか、そうですか！』

毎日見ていると当たり前になっっていることも、ちょっとはなれたところから見ると成長が見えてくるものです。

ちよつぷり変化を加えて、どうなるかを楽しむのは私の悪い癖である。

教室に戻った後に子ども達に聞いた。

『先生がいなかったときに、いつもよりしっかりしていたのは誰？』

子ども達から個人名があがる。……みんなは見ているのだという意識を育てる。

そして、良いことをしてくれた子を認め合う場とする。

『遊んじやったのは誰？』

自己申告させ反省する場を与える。……短く、できれば明るく。反省の意を表明できればそれでいい。マイナス面の指導よりも、プラス面の指導を心がける。

ただ、危険なことや他人の嫌がることをした子には、強烈に指導を入れる。温かい雰囲気壊しても、徹底的に叱る。その子のため（勿論被害を被った子のため）であるが、学級全体の子どもの意識付けのためである。

それにしても、子ども達は、ここまで日々の習慣を守っている……教師の存在に、その指導に責任を持たなければならぬと強く感じた。柔らかい頭で柔軟に受け入れる一年生の子ども達である。うれしさと共に、おそれさえこみ上げてきた。

それにしても、うれしいことだ！

二〇 連絡帳の活用④ 「連絡帳で家庭の会話を導く」

学級通信でも子ども達の学校での様子を伝えている。

しかし、それは、どうしても数日遅れの内容となってしまう。

ところが、連絡帳は、今日の出来事をスピーディーに伝えることができる。そこに大きな意義がある。連絡帳が、より機能しやすくなるように、

家庭で保護者に確認の印を押してもらったとき、子ども達の記憶に残っている今日の出来事を、自分の口から伝えることのできる機会を導く

ようにする。

明日の用件を伝えるだけでなく、今日の学校での出来事を知らせるだけでなく、家庭で子どもが今日の出来事を話すきっかけを導くのである。

学級通信でどんなに子どもの姿を伝えても、やっぱり、目の前で自分の子どもから学校の様子を聞く方がいいに決まっている。

そのきっかけを導くために、連絡帳の記述を工夫する必要がある。

連絡帳に書く文章で心がけること

- ① 楽しい内容・表現で
- ② 未完成な文をとどこどこに入れる

情報伝達の目的以外にも、親子が連絡帳を通して笑顔で会話ができるようにするために連絡帳は存在する。

七月十八日（金）の連絡帳

あつくてあつくてとけちやうところでしたが、ぶうるにはいつたらかたまりました。あしたもはいるのでよろしくね！

楽しいことばで連絡を。やがて、この文体が子ども達の日記帳に表れることも意識して。

七月七日（月）の連絡帳

たなばたのかざりつけをしました。ねがいごとがかなうといいなあ。あしたはぶうるにはいつてぶかぶかうかびます。ぐるぐるまわってながされまうす。

プールで流されるとはどういうことか。子どもに聞かなければならないようにしむける。子ども達が最も喜ぶうずまき（みんなで動いてプールの水に流れを作り、その流れにのる遊び）の話を、保護者の方々は楽しんで聞くことになる。

*

十月二十八日（火）の連絡帳

きょうかられんらくちょうのしゅくだいはじまります。いろんなことをかいてくるのでござる。まことくんのおかあさん、おいしかったです。ありがとうございます。

まことくんのお母さんを食べたと思う人はいないだろうが、未完成な文が保護者の問いを生むだろう。子ども達はお母さんのクッキーをまことくんのお母さんから頂いて食べたことを笑顔で話したはずである。

十一月十三日（木）の連絡帳

しぶがきをかじりました。とつてもしぶかったです。やっぱりなまではおいしくありません。せんせいは、「〇〇もなまでたべるとしぶいよ。」といっていました。あしたは、ごぜんじゆぎようよ。きゆうしよくはあ
るよ。

二学期も後半になると、こうした連絡で、授業を広げることができるようになる。オープンエンドを支える役目を連絡帳が担うことにもなる。

十一月二十一日（金）の連絡帳

わたくしめは、きんろうかんしゃの日には、よろこんでおてつだいをいたしますので、なんなりとおもうしつけくださいませ。いつもやさしくしてくださってかんしゃいたしております。けやきのはっぱのカードをお

うけとりくださいませ。

「うちのお母さん、やさしくないよ」と笑いながら板書を写す子ども達。家庭での保護者の方々の笑顔が目につく。けやきのはっぱカード作成までの出来事も楽しい話題になったはずである。

学校の様子を思い出し、楽しく話し出す子どもの姿を見て、保護者の方々の連絡帳へのことばも変わってきたようだ。

*

今日的な問題として、

学校と家庭で子どもの思考が切れる

ことがあげられる。

学年が下があれば下がるほどその傾向は強い。

宿題忘れが多いのも、学習が教室の中でしか行われないのも、もとはそこにある。

学校と家庭での子どもの思考が途切れないように工夫していかなければいけない。

私の目指す授業のオープンエンド化は、学校と家庭での思考の継続が土台となる。

こうした取り組みが授業作りにつながっていることに気づかされたのは、後のことである。

連絡帳で家庭の会話を導くことは、学校と家庭での子どもの思考を継続させる重要な手立ての一つとなる。

二二 授業参観での発表会

七月二十四日に授業参観があった。入学式以来何度も授業を見て頂いていることもあって、今回は工夫を凝らしてみた。子ども一人ひとりが「こんなことができるようになったよ」と紙に書いた作文（絵も入っている）をお家の方に向かって読み上げることにした。

授業参観のお願い

七月23日（水）

学級通信No.28

明日の授業参観は、子ども達の発表『こんなことができるようになったよ！』をしたいと思っています。ご兄弟のおられる方は、そちらの参観もされることと思いたいので、発表時間を決めておきたいと思っています。お子さんの発表時間にはぜひ教室においでください。（子ども達の発表はお家の方に向かって致します。1対1で向き合って行います。お子さんとお家の方の顔をみなさんに知ってもらうこともできますので、この形式でしてみたいと思います。）

1号車	……2時00分
2号車	……2時10分
3号車	……2時20分
4号車	……2時30分

みんなが見ている中、正面黒板前で子どもとお家の方が向き合って行った。

堂々と読み上げる子。子ども以上に緊張しているお母さん。感動的であった。

授業参観は、教師の指導場面を見て頂く意義も大きいが、子どもの成長した姿、安心できる教室の集団を見て頂

く意義も大きい。

翌日の連絡帳に書かれた授業参観の感想の多さも格別であった。

一学期間どうもお世話様でした。昨日の授業参観、緊張しました。娘から文を読んでもらった時は、涙がでるほどうれしかったです。

七月二十四日

とつても緊張していたようでした。手が少しふるえていて、声がうわずっている姿を見て、少しは成長したんだなあと思いました。以前は、人より目立ちたいという気持ちがあったようですが、そういう経験をして自信をつけたりしてほしいです。

「おしらせ」予想以上に良かったので、お父さん・おじいちゃん、おばあちゃん、私一同「Eにしてみれば上出来だ!」とほめていました。欠席もなく無事登校できたし勉強もいっぱい覚えてくれたし、すごい成長をしたと思います。「学校楽しい、勉強も楽しい。」この言葉だけで十分だと思います。そう思わせて、楽しい学校生活を送れるのも、担任の先生に恵まれたおかげだと思い、感謝しています。

この一か月、子どもをとかさないように、休み明けは黒いゴマアイスのような元気な姿にして登校させます。先生もとけてなくならないように元気にお過ごし下さい!

七月二十四日

今日の授業参観は、とても有意義な時間を過ごすことができました。こういう授業参観もあるのですね。先生のアイデアにいつも感心しております。

幼稚園での三年間、皆勤賞にはまったく無縁だったFが、一学期だけでも無欠席だったというだけで本当に驚いています。先生の引力か、それともお友達の引力か、たぶんFを引きつける魅力が一年二組にたくさんあったのではないのでしょうか。これからも子どもと共に親である私自身も少しずつ成長していけたらいいなと思っています。二学期もよろしくお願い致します。

七月二十四日

二二 見えないところでの親同士のつながり

七月に入るとこういう内容を目にするようになった。

七月二十四日（木）学級通信ポポポノNo.29（裏面全面掲載）

連絡帳より

心温まるお話をありがとうございます。

子どもに間違いや失敗はよくあることです。あたり前のことです。それが一年生の仕事でもあります。そういう時、お家の方がどのように対応されるか。私はとても勉強になりました。

何かあった時、お家の方がどのようにするか、子ども達は見ています。

子どもは親の背を見て大きくなると言われます。

最初は、一年生だからこうなのだと思いますが、この頃、このクラスは、どうしても達が素直で、物分かりが良いのが分かってきました。

子ども達だけを見ていては、分かりません。

お家の方々の躰がいかにしつかりされていたかが分かりました。

タベ子どもの友達のお母さんから電話がありました。（初めて話をする方です。）

家の子とその子が遊んでいてぶつかり、家の子どもの歯がぐらぐらしたと聞き、心配して電話をくださったのでした。乳歯でもともと抜けかかっていたのが、夕方抜けた矢先でした。ぶつかったおかげで、やっと抜けて良かったでした。わざわざ心配して電話を下さり、心があたたまりました。その子もお母さんにちゃんと報告したんですね。えらいですね。今家の子は前歯2本がありません。

七月十日

電話をかける方。受け取る方。

どちらも緊張されたことだと思えます。ましてや初対面であれば、尚更のこと。

子と思う気持ちは、どちらも同じ。相手のお子さんを心配される親心。それに感謝される優しい心使い。読ませていただき、私はとても心があたたかくなりました。

きのうBさんがプールカードを家にとどけてくれました。

「Bのバインダーに入っていました。」とのメッセージがついてポストに入っていました。るすにしてお会い出来なかったのですが、すぐGに電話させました。BさんのプールカードはBさんが持っていることがわかり、お礼を言わせて切りました。家を知らないのに調べてとどけてくれたみたいです。大変たすかりました。

七月十七日

わざわざ探して届けてくれたんですね。（家庭訪問時、私は地図を持っても時間がかかりました。）感謝の

言葉と相手の方のプールカードを心配されて電話をかけたGさん。多くの事を学んだはずです。

大雨の中、びしょぬれになって帰ってきました。下校班の女の子たちは車で帰ったと不服そうに言っていました。あとは何も愚痴をこぼしませんでした。ところが、その後に帰ってきた兄は、帰るなり、「どうして迎えにこなかったんだよ。」と怒ります。長男は1年生の時からしょっちゅう迎えに行っていたので、あたりまえと思っているところがあります。また、それを当てにしている友達もいます。何かあった時すぐ人を頼り、自分の力で最後まで頑張ろうとする根気が欠けてしまうのではと、私自身反省させられました。車で迎えに行くのも善し悪しです。つらくても自分の力で物事をやりぬくという大切さをHにも話し、ほめてやりました。

七月十六日

考えさせられました。親の姿勢で変わって行くものですね。我が家でも、上の子は転んだらすぐに起こす、そういう人に囲まれて育ちました。2番目は、転んでも大丈夫と確認済で生まれてきました。そのため一人で立ち上がります。(その分、我が家の2番目は乱暴ですが。)

時には厳しさを持って子どもに接する大切さ。親の信念が必要です。遠く先を見て子どもに接すること、ですね。勉強になりました。

今日は、プールに入ってきたという。帰ってからプールのバッグを出して、

「お母さん、見てみて、何かないかもしれないよ。」

本人はプール用のキャップがなくなったことに気づいたようですが、先生にも何も言えずに帰ってきたようでした。その後でIと弟と母親と学校に行き、机の中やまわりを探してみたのですが、見つからなかつ

たそうです。日頃から遊んだ後の後片づけが苦手なIにとっては、「みつかるといいなあ〜」とちょっぴり不安な表情の一日でした。家では、弟を子分にしておきな声であばれまわっているIも、学校ではかりてきたねこのような姿が想像されます。記名はしてあると思いますので、捜索の方はよろしくお願いいたします。

ところで教室でキャップを探している時に、手づくりバッグがはられているのを親子で見えて来たそうです。Iのバッグは、袋状にもなっていてなくて、とてもバッグとはいえるしろものではなく、家に帰る途中で、「あれじゃあ、何も入れられないでしょう。」 「……………」

その後もいろいろあったようですが、学校で手づくバッグを作ったその日に、家に帰ってからあまった紙で同じようにバッグを作ったところをみると、上手には作れなかったもののIにとっては、楽しいひとときだったようです。

上手にできなくても、楽しく作れたことを認めてあげて、ちよっぴりだけでもすてきなところをみつけてあげて、ほめて、励ましてやるのが親にとってできることではないかなあと思いました。『ぼんぼこぼん』を読ませてもらうと、あらためてそんなことを思います。これからもよろしく願いたいします。先程、Zくんのお母さんから電話があり、Zくんのバッグの中にIのキャップが入っていたそうです。「これで明日もプールに入れるね。」 安心して床につくことができたIでした。

七月十七日

子どもを見る目を教えて頂けました。一年生は成長過程です。失敗を通してたくましくなっています。成功を通して伸びていきます。その二つが大切なですね。

お子さんの成長を広い視野で見守っておられますね。Iくんは、幸せですね。

担任に連絡して……とか、そういう安易なことを考えずに子どもと一緒に行動に移される。届けて頂いた方が喜び、わざわざ連絡帳に書いて下さった。こういう保護者の方々をそれまで私は知らなかった。

「失敗を気にしないで。」 「間違うことからたくさんのごことを勉強できるよ。」

子ども達に語ってきた言葉であるが、お家の方が身をもって子どもに示して下さった。

子どもの失敗で気まづくなるのではなく、それを通してお家の方同士の温かいつながりが生まれてくる。こういうつながりをもてれば、地域で起こる問題などはどれ程少なくなるかと考えさせられた。

二三 一学期最後 連絡帳は温かい心を伝える

「今日はプールに入れてよかった。」とたいへんよろこんでいます。天気は、いまひとつパツとしないのですが、子どもにとっては、なんでもないことなのでしょう。

国語の音読で『大きなかぶ』で、私、下の子、そして主人までかりだされて、かぶをぬいてます。

「うんとこしょ、どっこいしょ！」

家族劇団で、毎日キャストが変わり、楽しいひとときです。

七月十日

夏休み中、ジグソーパズルを完成するということで、三百ピースのポケモンを買ってあげました。前回は、二百ピースのミニ四駆を作った自信からか、やる気一杯で昨日からおばあちゃんの家にも一人でもつていき、さ

つそく十枚をあわせたようです。興味のあるものに取り組むと目が輝いてきますね。

せつかく夏休みが一月もあるので、ゆつくり作つたらと言うと、

「ボク、そんなに長い休みいらぬ。学校に行きたい。」

とうれしくなるような返事。こんなに学校が好きになったのも、先生のご指導のおかげと大変感謝しております。

七月二十三日

毎日のように持つてくるプリント。はなまるがいっぱいで、とてもうれしく思います。「J、すごいね。頭いいね。」とほめると、「だって、おかげに頭かんでもらったも。」と、保育所の時、おかげ（ししまい）に頭が良くなるようにと、頭をかんでもらったのをおぼえていたようです。

「連絡帳」を読んで、**とてもほんわかった様な気持ちになりました。**先生と、子どもと親とのコミュニケーションがとれていて、あつたかいクラスと家庭があつて、Jのクラスは、いいクラスだなあと思いました。

七月二十三日

連絡帳を見て楽しんでいるのは、どこのお母さんも同じですね。今日は連絡帳を忘れて行つてしまい、自由帳に書いてきました。線も引いてないのに、まっすぐじょうずに書いてあるので感心しました。本当に暑くて、私はとけっぱなしで、固まるひまがありません。子ども達のようにプールに入れたらなあ。どんなに涼しいだろうと狸のような腹をさすりながら汗だくになっています。

七月二十二日

ほんのりとした温かさが伝わってくる。

二四 宿題について

原則として、一度学校で書き、みんなで答え合わせをしたものと同じものを宿題にした。
一学期は、プリントの宿題を多くした。
最初のうちは、

表と裏に同じものを印刷して、

表……………授業で書き、黒板で説明したり教師がまるをつけたりして、正答まで書かせる。

裏……………宿題。

の形式を徹底した。

B4版で、左半分がひらがなの練習、右半分が数字の書き方や計算と形を決めて、授業と宿題を関連づけた。
こうすると、

保護者は、その日一日子どもが学校で何を勉強してきたのかを知ることができる。

子どもは、一度書いたプリントなので安心して書くことができる。また、忘れたら裏（表）に答えが書いてあるので思い出して書くことができる。しかも、その答えは、自分で書いたもので、先生からの赤ペンで大きな丸が付
けられているものである。

授業を思い出しながら短時間でプリントを書く子どもを目にすれば、お家の方の言葉は温かいものとなるはずで

ある。

一年生は、自分ができることを見て欲しい、認めて欲しいのである。

保護者だって、そうして頑張っている我が子の姿を見たいのである。そして、認めて褒めたいのである。教科書を見てノートに書かせる宿題は、一年生の最初のうちは、問題を書くまでの準備（教科書・ノートなど）に手間がかかりすぎ、適さない。

親も子も安心することができる宿題にしたい。

*

プリントの裏が宿題になる……授業中に表の問題を書く時の子ども達の意識が高まるのは当然のことである。授業での集中力が高まる。

授業と宿題に相乗効果が生まれることになる。

『子どもの笑顔で結ぶ保護者との連携』沼澤清一著

明治図書 2006 年より抜粋